

『月刊ニューステーブル』2018年3月号

～桃色のテーブルクロスの上に——新鮮なニュースを載せてお届けします～

野菜ファンが喜ぶ「野菜レシピ」集 ハンバーグと野菜のコラボレーションなどの特集も オレンジページ



画像出典：(株)オレンジページ

オレンジページ（本社：東京都港区）が「年6回」発行している料理専門誌『オレンジページ Cooking』。

同誌は「料理により関心のある読者」に向けて発刊されているものだが、2月に発売された最新号では200品以上のさまざまな野菜のメニューを提案する『野菜レシピ』が特集されている。

キャベツ、もやし、かぶ、白菜などおなじみの野菜はもちろん、豆苗、きのこ、スプラウトなど全20種類99品が掲載され、主菜、副菜、汁もの、スープと、紹介されるジャンルも豊富。野菜ファンの方には日々の献立を考える上で心強いヒントになりそう。また今号では、野菜別に栄養を無駄にしない賢いストック法も紹介されており、忙しい毎日でも、こまめに野菜がとれるアイデアいっぱいの活用レシピが多数掲載。その他、野菜をたっぷり使って変身させたハンバーグメニュー「長いもの和風ハンバーグ」「青梗菜ロールの蒸しハンバーグ」「かぶバーグの香りパン粉焼き」などの特集も楽しい。

野菜高騰の折り「冷凍野菜シリーズ」の売り上げが好調 手軽に買える『VL 冷凍野菜』の人気ランキングも発表 ローソンストア100



画像出典：(株)ローソンストア100

ローソンストア100（本社：東京都品川区）の運営する『ローソンストア100』では、全商品ひとつ100円（税別）の『VL 冷凍野菜』シリーズの販売高が順調に伸びていることを発表。同シリーズ内での人気ランキングなどを併せて公開した。

同社の発表によれば、2018年1月の冷凍野菜の販売高が、前年（2017年）1月と比較して約120%以上伸長した。野菜の高騰やライフスタイルの多様化などによって、「必要な時に必要な分だけ使える『冷凍野菜』」が支持されていると同社を見る。特に『冷凍

ブロッコリー』『冷凍ほうれん草』は、対前年約15倍の売れゆきで「お客様からの高い支持を得ています」と同社。

2018年1月度の『冷凍野菜の人気ランキング』第1位は『VL ブロッコリー』。同商品はお弁当に使われたり、また様々な料理の彩りとしても重宝されているという。次いで第2位に『VL ほうれん草』、第3位に『VL 塩あじえだまめ』と続いた。

和菓子 8 商品でマレーシアの「ハラール認証」を取得 「国境を越えて和菓子を味わっていただくために」 とかち製菓



画像出典：(株)とかち製菓

とかち製菓（本社：北海道河西郡）では、同社が販売する「大福」「わらび餅」「ぜんざい」など8商品で、マレーシア（JAKIM）の「ハラール認証」を取得したことを発表した。

同認証（JAKIM）とは、マレーシア語「Jabatan Kemajuan Islam Malaysia」の略称で、イスラム開発局、首相府直轄の宗教庁のことで、マレーシアの宗教上の様々なことを担当する機関であり、ハラール認証を管轄しているという。

今回、同社がこの認証を取得した背景には、年々増加している訪日客に向けた「デザート需要」に対応するために、とくに食の規制が

厳しいムスリムの方々にも「日本ならではの和菓子を安心して食していただくため——」としている。

同社は「マレーシアの『JAKIM 認証』は、マレーシア国内だけでなく、世界中のイスラム圏での信頼度が高く、日本製品での認証取得は大いに意味があると考えられます」としている。

今後、この認証取得を機に同社では、PB（プライベートブランド）や、OEM（製造委託）開発などの要請にも対応していくとのこと。

いわゆる「買物弱者」支援を強化 地域密着型スーパーが実施する施策あれこれ 【地域情報：奈良】近商ストア



画像出典：(株)近商ストア

近商ストア（本社：大阪府松原市）では、4月初旬頃より、同社「近商ストア生駒店」において、移動スーパー『とくし丸』の運行を開始する。

いわゆる「買物弱者」「買物難民」と言われる日常の買物に不自由する人たちの激増に対する施策として取り組むもの。

同社では、地域密着型のスーパーマーケットとして、これまでも主に「奈良県北部の店舗」を中心に、店頭で購入された商品を自宅まで配送する「宅配サービス」や、買物を終えて帰宅する際のタクシー代の一部を負担する「楽タクサービス」

等を展開しているが、今回はさらなるサポート強化として、生鮮食品、お総菜、日用品など、約400品目1200点を積み込む移動スーパー『とくし丸』の運行をスタートさせる。

「『とくし丸』はお客様の個別のお宅に訪問して販売を行なうため、一人暮らし高齢者の「見守り役」にもつながります」と同社は語る。

今後は対象エリアやサービス拡大に向けて、「販売パートナー（個人事業主）」の募集も開始する。

家庭で取り組む手軽な「水耕栽培キット」 独自のシステムで大きなトマトなどの収穫も可能に ヴェルサイユトレーディング



画像出典：ヴェルサイユトレーディング(株)

めの理想的な生育環境が作られて、作物の生命力を最大限に引き出すのだという。

また同システムは「太陽光」を使うため、従来では作れなかった大きなトマトやなす、かぼちゃ、メロン、スイカ、ブロッコリーなどまで家庭で作ることができるようになったという。さらに、独自の仕組みで酸素・水・養分を循環させて根の周辺環境を新鮮に保たせて、屋外設置でもボウフラ・蚊などの虫を本体から発生させないのだという。そして一定の発育環境であれば、1.5～2倍の生育スピード、3～4倍の収穫量も期待できるとのこと。また、市販の種・苗いずれからでも手軽にスタートできるというのも注目点。

除菌力、安全性、利便性を備えて米国で支持 ワンステップでできる除菌・洗浄剤『ピュレル サーフェス』 ゴージョージャパン



画像出典：ゴージョージャパン(株)

ゴージョージャパン（本社：東京都千代田区）では、新しい環境除菌・洗浄剤『ピュレル サーフェス』を発売。同時に新規代理店募集を開始した。

同商品は、ワンステップで除菌・洗浄が完了するという新しい環境除菌・洗浄剤で、ゴージョージャパンでは「手袋不要、調理器具にかかっても安心」とうたう。米国環境保護庁（EPA）に登録され、除菌性能、安全性が承認されたもので、調整不要ですぐに使用できるとのこと。また使用期限も「2年以上」と長く、除菌力、安全性、利便性

を兼ね備えたことで、米国では医療・福祉施設、フードサービス、食品工場、オフィス、ホテル、学校、フィットネスクラブなどで幅広く使用されているのだという。

同社は1997年設立。手指衛生管理・スキンケアに特化した製品を、医療・福祉施設、自動車産業、フードサービス、ホテル、官公庁や学校などプロフェッショナル市場に向けて提供してきた。